

## 2. COUNTIF関数

指定範囲内にあるセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を集計

[活用事例] 5年間での健診受診回数が0回の人数（未受診者数）の集計 など

	B	H	L	M	N	O	P	CV	CW	CX	CY	CZ	DA	DB	DC	DD	DE
1										受診回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	合計
3										人数	0)	329	297	319	835	0	5,000
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
5000	4995	男															
5001	4996	女															
5002	4997	女															
5003	4998	女															
5004	4999	女															
5005	5000	女															

関数の引数

COUNTIF

第一引数 範囲 CV6:CV5005 = {0;0;0;0;0;0;0;4;2;0;0;0;0;3...}

第二引数 検索条件 0 = 0

= 3220

指定された範囲に含まれるセルのうち、検索条件に一致するセルの個数を返します。

範囲 には空白でないセルの個数を求めるセル範囲を指定します。

数式の結果 = 3,220

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

- ① CY3～DD3に対しCOUNTIF関数を使用し、健診受診回数に応じた人数をカウントします。
- ② 健診受診回数が0回の人数をカウントする場合、第一引数（範囲）をCV6：CV5000と指定し、第二引数（検索条件）では0回の人数をカウントしたいので、指定する文字を「0」と条件設定します。繰り返しになりますが、COUNTIF関数では、第一引数の指定範囲内において、第二引数「0」に該当する数をカウントすることになるので、数式の結果は「3,220」となります。（健診受診回数0回の人数は3,220人）
- ③ 健診受診回数が1回の人数をカウントする場合についても同様に、セルCZ3に対し第一引数は変わらずCV6：CV5000と指定し、第二引数を「1」と条件設定することで数式の結果は「329」となります。

次号（第3弾）では、今回カウントした人数から割合を求め、視覚的に全体像を把握すべく「グラフの作成方法」について紹介する予定です。

# データベースコーナー

## 国保データベース（KDB）システムを活用した特定健診未受診者の状況把握 ～第2弾～

◎前号に引き続き、特定健診の未受診者対策として活用可能なKDBシステムの機能をご紹介します。

KDBシステムから抽出可能な「被保険者管理台帳」の帳票CSVを活用し、特定健診未受診者を容易に把握することができます。

今回は帳票CSVの集計に役立つExcel関数の使用例を紹介しますので、引き続き、継続した特定健診未受診者対策の取組を進めていきましょう。

### 1. COUNTA関数

指定範囲内にあるセルのうち、空白でないセルの個数を集計

【活用事例】5年間での健診受診回数の集計 など

	B	H	L	M	N	O	P	CV	CW	CX	CY	CZ	DA	DB	DC	DD	DE
4																	
5																	
6	1	女						0									
7	2	男						0									
8	3	男						0									
9	4	女						0									
10	5	男						0									
11	6	女						0									
12	7	男						0									
13	8	女	○	○	○	○	P13)	4									
14	9	女			○	○		2									
15	10	女						0									
5000	4995	男						0									
5001	4996	女						0									
5002	4997	女						0									
5003	4998	女						0									
5004	4999	女						0									
5005	5000	女						0									
5006																	

① CV列に対しCOUNTA関数を使用し、健診受診回数をカウントします。

② 値1の引数をL13:P13と指定し、その範囲内における空白でないセルの個数は4つ（「○」が4つ）あるので、数式の結果は「4」となります。

③ 5000行目については、②の数式をコピーし、セルCV5000に貼り付ける「=COUNT(L5000:P5000)」と、空白でないセルは0個であるため健診受診回数についても「0」となります。